

尾村県議の質問(前号の続き)

無慈悲な国保証の取り上げやめよ

県内においては本年2月1日時点で、加入世帯の12.4%に当たる1万714世帯が国保料・税を滞納し、その制裁措置として命綱である保険証の取り上げが462世帯にも達しています。

尾村県議は「払える保険料とするために保険者は一般会計からの繰り入れや基金の取り崩し、保健事業推進など、あらゆる努力をすべきであり、資格証明書の交付をゼロにすることこそ、行政の

責任だ」と強調しました。

吉川健康福祉部長は「保険証の返還は被保険者にとって非常に大きなペナルティーになる」とし、「保険料の納付が困難な方には生活困窮者自立支援制度の相談窓口をお知らせするなど、関係部署が連携してきめ細やかな対応を行うよう市町村に対して重ねて助言していきたい」と答えました。

尾村氏が病院窓口で一部負担金減免や保険料・税の減免制度などの

県の統一申請書式の整備などを求めたのに対し、吉川部長は「減免等の制度周知や利用しやすい手

原発判断基準に憲法と地方自治法を

尾村県議は、丸山知事に対し、「原発問題の判断基準に、基本的な人権を保障した憲法と住民の安全を守ることを自治体の使命と規定する地方自治法をモノサシに据えるべき」と質しました。

丸山知事は「憲法の基本的な人権の尊重と地方自治法における地方公共団体の役割などの規定については、原発の再稼働のみならず、県政の推進に

続きについて、より有効な手段がないか、今後も市町村と検討していきたい」と答弁しました。

自衛隊適齢者名簿提出強要はプライバシー権侵害

尾村県議は、防衛省が自衛官募集の適齢者名簿提出を自治体に要請していることを抗議。山口和志防災部長は「県内で紙媒体による提供が5自治

体、閲覧提供が14自治体である」と回答。尾村県議は「応じる義務はない」との国会答弁もあり、個人情報保護に反することはやめさせるべきと迫りました。

大田県議の質問(続き)

職場復帰促進事業の対象拡大を

「出産後の職場復帰促進事業」が中小企業等を対象に実施されていますが、多くの保育所が対象から外れています。

大田県議は、職員の職場復帰促進とともに、民間保育園の経営の一助となるよう、社会福祉法人については、法人全体の規模では

ました。また、松江地方合同庁舎ロビーで、ハローワークへ求職に来た若者に対して執拗なる入隊勧誘行為は不適切であり、改善を強く求めました。

新田典利商工労働部長は「県では、新たな総合戦略の策定に合わせて、女性活躍推進本部を中心に、子育てしながら働きやすい職場づくりなど、さらなる

なく、各施設の規模等を要件とするなど、対象拡大に向けた制度の見直しを求めました。

参院比例男性現職を再び国会へ

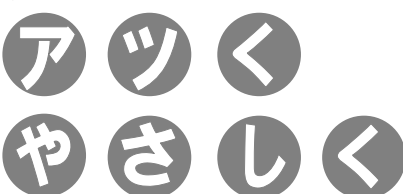
「大平くん、我々の役割は『現場』で『当事者』に『直接』話を聞き、その代弁者となること。『現場』を忘れたら国会

議員は終わらだ」熱血弁護士の参院比例男性現職から当選直後、また事ある度に言葉と背中



院衆議員 前議 大平よし のぶ

大平よしのぶ



国会から最も移動時間の要する地域で活動する私たちにとって、いかに工夫して最短期間・時間でそれぞれの現場にかけつけるか、またギリギリまで現場でお話を伺うかはいつも真剣勝負です。

昨年の豪雨災害の発災直後のこと。新幹線をはじめ陸路の多くが不通となり、私は東京から戻ってきた広島空港で足止めにあい、男性現職は福岡から動けずという状況でした。必死の思いで広島駅までは来た

ものの、大きな被害のあった呉市にはやはり行く術が見つかりません。しかし、模索する中で愛媛に行くフェリーの経由地として呉に行けることを発見。広島の人間でもなかなか思いつかない方法で呉市に入ることができました。なんとしても現場にかけつけるという男性現職の「執念」をあらためて痛感した出来事でした。

西日本17県という広大な地域を担当し、多くの場所にかけて、多くの方と会っておられる男性現職。私がいつも驚かされるのは、地方議員全員の顔と名前はもろろん、本当にたくさんの方の名前を覚え、場所を覚え、何があるか、どんな話を聞いたかそのエピソードについて、より有効な手段がないか、今後も市町村と検討していきたい」と答弁しました。

地域の話題

安 学童クラブの整備を 原田議員が要求

原田議員「学童クラブは学童と保護者にとってなくてはならない放課後の安心できる生活の場と

生まですが対象であるにも関わらず、募集されていない施設や待機児童がある」と聞いています。受け入れ態勢を整備すべきだ。

雲 水道料値上げに反対 後藤議員が討論

「出雲市水道料事業給水条例の一部を改正する条例」は、来年4月から水道料金を平均12.5%引き上げるものです。

安倍政権のもと、相次ぐ社会保障の切り捨て、今年10月からは消費税増税も狙われている時、出雲市が水道料金を引き上げるとなると、市民の暮らしはますます困難になります。「値上げは絶対反対」との市民の声を受け止め、水道料を上げてはならないと討論に立ちました。

大 介護の後退許さない 亀谷議員が討論

亀谷議員は「平成31年度大田市介護保険事業特別会計予算」の反対討論に立ちました。

昨年度より第7期介護保険計画がスタートし、大田市の保険料基準額が第6期の月額5800円から6500円へと引き上がり

ました。特別養護老人ホームの待機者は市内で180人にとどまっています。亀谷議員は「介護給付の削減や利用料の引き上げなどを行うのではなく、現役世代も安心できる公的介護制度に転換すべきだ」と訴えました。採決の結果、共産党のみ反対でした。(「大田民報」より)

女性活躍に向けた施策を検討していくこととして、この中で、育児休業を取得しやすく働きやすい職場づくりが進むよう検討していきたい」と答えました。

「」とう由美の議会報告・3月議会」より)

生きるための選択を

JCP サポーター特設サイト URL <https://www.jcp.or.jp/supporter/sanin2019/>